

2 ケリバーン^{かはん}河畔の農夫

- ケリバーン^{かはん}河畔に一人の農夫が住んでいました
(おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる)
農夫には長年 手に負えない女房がいました
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗
- ある日 農夫が深い谷に分け入ると 5
(おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる)
悪魔に出会って 「やあ こんにちは」とごあいさつ
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗
- 「わしには悪妻がいて それがこの世の悩みの種で
(おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる) 10
失礼ながら 女房と比べりゃあんたは天使」
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗
- 「おまえさんの子牛でも子馬でもなく
(おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる)
女房殿を 是非ともゆずってもらいたい」 15
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗
- 「それはもう 喜んで」 農夫は顔を輝かせ
(おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる)
「あいつと相性合うならば あんたは評判以上の大悪魔」
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗 20
- 悪魔は古女房を背中にかつぎ
(おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる)
哀れな行商よろしく 荷物を背負^{しよ}って立ち去りました
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗
- 女を^{やかた}館に運び込み 25
(おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる)
「とっとと中に入りやがれ」と命じました
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗

さっそく 選りすぐりの手下を五十匹
（おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる） 30
手をたたいて 女の見張りに当たらせました
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗

古女房は 狂った熊のように大暴れ
（おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる）
一度でも手が触れたが最後 二度と近づく者はおりません 35
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗

血の汗たらしめた小悪魔が壁越しに
（おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる）
「ああ大将 助けて この女にみんな殺られちゃう」
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗 40

悪魔は ナイフの刃に誓って言いました
（おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いている）
「女房ってやつに繋がれた男こそ哀れ」
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗

悪魔は 教会の鐘に誓って言いました 45
（おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる）
「結婚しなけりゃ 地獄も天国」
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗

それから悪魔はふたたび荷物を背負って てくてくと
（おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる） 50
老いぼれ亭主に返しにゆきました
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗

「わしは 人生のほとんどを悪魔で通ってきたが
（おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる）
女房というものに出会って初めて 地獄を知った」 55
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗

（山中光義訳）